

第159回 伊丹市内企業の景気動向調査

- <調査対象> 伊丹市内の主要企業 150 社
- <調査期間> 令和 2 年 10 月中旬～ 11 月 5 日
- <調査方法> 郵送によるアンケート調査方式
- <調査対象期間> 令和 2 年 7 ～ 9 月期
- <比較方法> 景気動向については「直前期」、経営動向については原則として「前年同期」と比較
- <有効回答数> 150 社中 91 社（一般 35、食料品工業 10、商業 12、建設業 13、運輸業 12、サービス業 9） 回答率 60.6%

調査結果

〔伊丹市内企業の経営動向について〕

産業別DI（景気動向指数）とは…それぞれの調査項目に対してプラス傾向（増加・好転など）の回答割合からマイナス傾向（減少・悪化など）の回答割合を差し引いたもの。

景況天気図			
DI 値	+30	+10	▲10

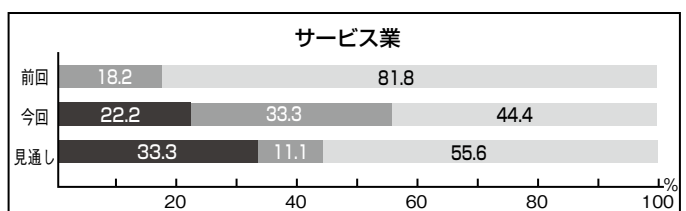
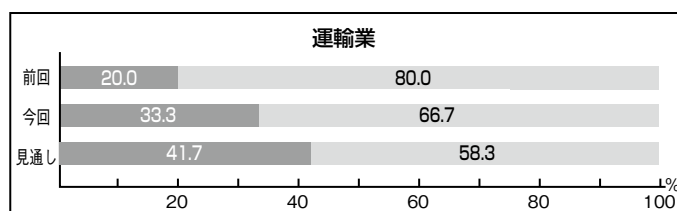
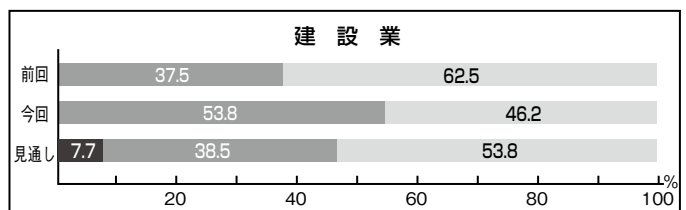
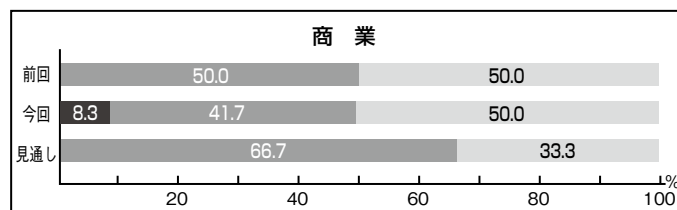
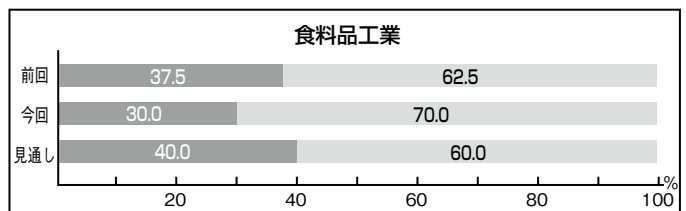
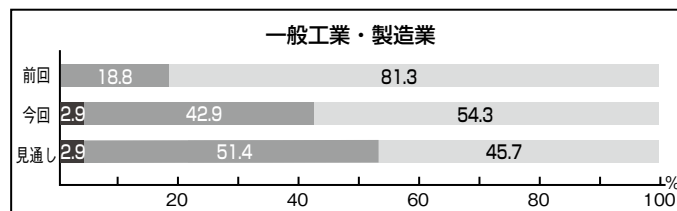
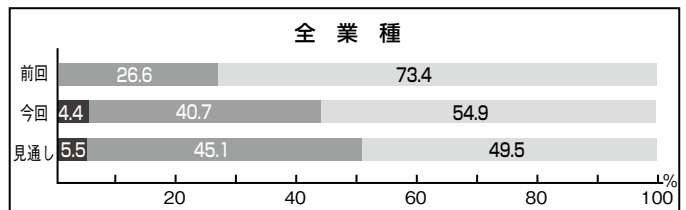
DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

全業種	業況		売上		採算		仕入単価		従業員	
		▲		▲		▲		▲		
全業種		▲ 53.8		▲ 64.8		▲ 60.4		▲ 17.6	不足	11.0
一般工業		▲ 65.7		▲ 74.3		▲ 68.6		▲ 20.0	不足	11.4
食料品工業		▲ 60.0		▲ 80.0		▲ 70.0		▲ 20.0	不足	10.0
商業		▲ 25.0		▲ 25.0		▲ 33.3		▲ 16.7	丁度	0.0
建設業		▲ 38.5		▲ 46.2		▲ 53.8		▲ 15.4	不足	23.1
運輸業		▲ 58.3		▲ 91.7		▲ 66.7		▲ 16.7	丁度	8.3
サービス業		▲ 55.6		▲ 55.6		▲ 55.6		▲ 11.1	不足	11.1

〔伊丹市内企業の景気動向について〕

今回の調査結果（回答 87 社）によると、令和 2 年 7 ～ 9 月期の景気実績は「上昇」回答 4.4%（前回 0%）、「下降」回答 54.9%（前回 73.4%）、景気見通しは、「上昇」回答 5.5%、「下降」回答 49.5%となった。

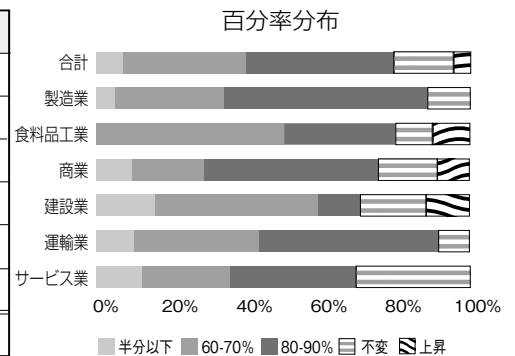
グラフの表示 上昇 横ばい 下降



新型コロナウイルス感染症の影響について

①現在の売上は、昨年比べておおよそどのくらいの水準ですか

現在の売上	昨年の半分以下	60-70%	80-90%	ほぼ変わらない	昨年よりも増えている
一般工業・製造業	2	9	20	4	0
食料品工業	0	5	3	1	1
商業	1	2	6	2	1
建設業	2	6	1	2	2
運輸業	1	4	6	1	0
サービス業	1	2	3	3	0
合計	7	28	39	13	4



②売上がコロナ前の水準に回復する時期をいつ頃と見込んでますか

回復する時期	回復済	2020	2021	2022	2023 以降	戻らない	わからない
一般工業・製造業	0	2	8	6	3	0	16
食料品工業	1	1	1	1	0	0	6
商業	1	2	4	0	2	0	3
建設業	0	0	2	1	5	1	4
運輸業	0	0	3	2	2	4	1
サービス業	3	0	1	1	1	1	2
合計	5	5	19	11	13	6	32

(一般工業・製造業)

- ・仕事の話はあるが決まらない。
- ・雇用調整助成金の延長を望む。
- ・全体として回復しつつあるが、この基調が本物かどうか不安。2021年春以降の反動下降を懸念する。
- ・海外への移動に対する規制が厳しいため、以前のような仕事の組立がしにくい状況。
- ・金融支援がひと息つくため、今後が気になる。第2弾、第3弾はあるのか？
- ・利益的にはかなり厳しい状況ではあるが、ここを乗り越れば万博で内需が見込める。
- ・客先が修理や点検工事を先延ばしにしているため受注が減る。
- ・コロナ関連により、他県での作業がやりにくい面がある。
- ・助成制度等公的機関の経済対策支援の延長または再実施を望む。
- ・今年5月までの売上は前年比増だったが、6月に急激に半減した。9月からV字回復したがこの先の予測は難しい。
- ・コロナ禍での特需が奏功して前年比は変わらない。
- ・鉄道利用者の減少に伴い、電鉄各社の機材の製造やメンテナンスが先送りになることを懸念している。

(食料品工業)

- ・コロナ禍による内食需要の増加で、昨年よりも受注量が多くなっている。

(商業)

- ・コロナの影響はあまり受けることなく推移しているものの、今後の動向は不透明。
- ・コロナで宴会がほとんど無い状態。2、3年は無理だと思う。
- ・取引先の飲食店は軒並みコロナ前までの客足に戻ってないと聞く。
- ・店舗売上の減少を見込み、ネット販売を強化したため、全体の売上は昨年並をキープしている。
- ・キャッシュレスが普及してきたが、手数料負担が重荷になる。
- ・テイクアウトの宅配でなんとかフォローしているが、やはり以前の自粛ムードが尾を引き、店内飲食が下降気味。

(建設業)

- ・一時中国製の建設部材が入手困難な時期があったが、現在は回復した。

(運輸業)

- ・荷主製品の出荷量の減少に加えて、積載効率化で主力の4トン車両の利用が少なくなってきた。
- ・大型車両の導入には将来の不安が大きすぎて踏み切れずにいる。
- ・海外からの物流が止まり、以後配送ルートが変わって他業者へと移ってしまった。
- ・燃料の価格が下がっており、売上の減少をカバーして採算は変わらない。
- ・業界自体工場の動きが80%くらいしか戻らない予定

(サービス業)

- ・主力となるイベントが激減しているため、未だ回復が見られず苦しい状況である。
- ・来店サイクルが広がって客数が減少している。
- ・主要取引先の業績動向により売上高に影響がみられるが、今後好転の期待あり。